

2008 年度海外県人会ホームステイ派遣事業

【派遣先と派遣人数】

カナダ(アルバータ州レスブリッジ)

高校生 4 名、大学生 1 名、随員 1 名

米国(カリフォルニア州ロサンゼルス・ガーデナ)

中学生 4 名、高校生 1 名、随員 1 名

米国(ハワイ州オアフ島)

中学生 4 名、高校生 2 名、大学生 1 名、随員 1 名

【派遣期間】

カナダ・レスブリッジ、米国・ガーデナ:

2008 年 7 月 23 日(水)~2008 年 8 月 3 日(日)

米国・ハワイ:

2008 年 7 月 24 日(木)~2008 年 8 月 4 日(月)

【参加者感想(抜粋)】

- ・ カナダでのホームステイは驚きと発見だらけでした。車に乗って走っていると道がとて広く真っすぐにのびていて、初めて地平線を見ました。食べ物は、聞いていた通りサイズが大きくて、スーパーに行った時見たケーキが本当にこれを1回で食べることができるのかと思いました。外国人のイメージはしっかりと自分を持っていてサバサバしていると思っていました。実際は、逆にとても温かくて親切な人が多い、自分の外国人に対してのイメージが変わりました。毎日、色々な発見と驚きがありましたが、中でも1番印象に残っているのは、ウォータートン国立公園で見た景色でした。大きなホテルが建っている丘から見た景色は、キレイとか、スゴイでは表現できないほどの衝撃を受けました。これが人の手ではなく自然の力で出来たからこそ、人を感動させられるのではないかと思います。今回のホームステイでは、色々な意味での良い体験ができ、自分を成長させるかてになりました。忙しい中でも、私達をみてくれたホストファミリーの方々、私をカナダに行かしてくれたお父さん、お母さん、色々よくしてくれた金城さんや県人会の皆さん本当にありがとうございました。期待や不安を同じようにもって一緒に旅立った、玉城さん、ゆうこさん、えりな、み

なみ、さとみ、このメンバーで行けて本当に良かったです。ありがとうございました。(カナダ)

- ・ アメリカへ行って初めて知ったことは、日系人が第二次世界大戦のときに迫害を受けていたということです。リトル東京には、「GO FOR BREAK」と書かれた大きな石碑があり、アメリカ人からの信頼を得るために戦いに行ったたくさんの日系人の名前が彫られていました。自分たちの生まれ故郷である国から迫害を受け、強制収容所に入れられた人たちは、悲しい思いも悔しい思いもたくさんしたんだろうなあと思いました。私たちが戦争のことを学ぶには、このようなことをちゃんと知らないといけないと思います。すでに家族には話しましたが、学校でも友達に伝えることができるといいです。初めてのアメリカで、習慣も食生活も全然違う環境でしたが、すぐ順応することができました。友達もたくさんでき、十日間をとて楽しみました。毎日充実したスケジュールを組んでくれた OAA の皆さんや、送り迎えしてくれたホストファミリーのおかげです。本当にありがとうございました。この十日間は、私にとって大切なものになりました。この経験を忘れず、これからに活かしていきたいと思います。(米国・ガーデナ)

- ・ このホームステイへ行く前、私は県人会の事を、ほとんど知りませんでした。沖縄から移住した人々がいる、という事ぐらいしか知りませんでした。だから、ハワイ沖縄センターを見たとき、少しびっくりしました。でも、今ホームステイから帰ってきて私は、県人会の事も、移住した人々のことも少しわかってきました。たぶんその理由は、ホームステイの中で、県人会の行事に参加したり、交流したりしたからだだと思います。私の印象に残っている、県会の行事は、盆踊りとピクニックです。盆踊りは、沖縄の伝統文化「エイサー」を本当に一生懸命踊っていました。沖縄の事を誇りに思っているんだなと思い、なんだか嬉しかったです。カチャーシー大会には、小さい子も大人も参加して、楽しそうに踊っていました。私も参加して、楽しかったです。

(米国・ハワイ)